

平成二十九年三月投句

【那珂川町・裂田の溝】

啓蟄やマラソンの列首都に伸ぶ

青き踏む旧道観世音寺まで

沢光る早春の音ちりばめて

勝利

見下ろせる能古志賀島青き踏む

真理子

老梅の支柱の釘を新らしく

窓を突き壊し迷走春の猪

測量の杭立ててあり春の川

記紀の世の疎水を今に青き踏む

夜の庭散らかしたままうかれ猫

節子

家毎に小橋と汲ん場春の川

由紀子

里人に一段高き初桜

雛置かぬ白蓮の部屋花一輪

共に行く筑紫の野辺の初桜

野遊や川音を聞き風を聞き

光子

ふたすぢのせせらぎの音水の春